

〔史料紹介・I〕

神戸英国領事館関係文書目録稿

——付：サー・ハリ－・パークス書簡——

原田信男・芸林民夫・工藤幹男

I. 神戸英国領事館関係文書について

ここに紹介する神戸英国領事館関係文書は、元明治大学文学部教授・宗京三氏の所蔵にかかるが、札幌大学女子短期大学部文化学科長・内田實教授を介して借り受け、文化学科で整理にあたったものである。

本文書群のうちには、次にⅡで紹介するような英国特命全権公使兼総領事を務めたサー・ハリ－・パークスの書簡も含まれるが、これを除けば、次の5群、計188点からなる。

i) 日本文文書	21点	} 188点+1点 (パークス書簡)
ii) 蘭文・英文文書	53点	
iii) 綴(Ⅰ)	66点	
iv) 綴(Ⅱ)	18点	
v) 綴(Ⅲ)	30点	

このうちv)の綴(Ⅲ)を除けば、ほとんど全てが日本側から発信されたもので蘭文・英文文書もその翻訳である。またこれらを使用言語によって分類し、内訳を示すと次の如くなる。

内訳	1) 日本文文書原本	80点
	2) 蘭文文書	31点
	3) 英文文書	30点
	4) 日本文文書写	{ 日本発信 17点 英国発信 30点

以下、i)～v)の文書群ごとに簡単に紹介しておきたい。

i) 日本文文書 (21点)

これらは、万延元(1860)年から明治5(1872)年に至るもので、ほとんどを書状類が占め、布告・領収書・請求書類などもある。和蘭年番通詞や孛国公使宛のものも含まれるが、内容は、盗難・殺傷事件や土地・家屋をめぐる問題処理にかかわるもので、比較的日常的なレベルにおける国際上の問題が扱われている。いずれも日本側から発せられたもので、幕末から明治初年にかけての諸外国に対する日本側の対応を見ることができる。

ii) 英文・蘭文文書 (53点)

1860(万延元)年から1868(明治元)年にかけてのもので、日本側から発せられた文書の翻訳文である。内訳は英文22点、蘭文31点で、蘭文の翻訳には和蘭年番通詞があたったものと思われる。長崎時代のものも含まれている点が注目される。i)の日本文文書と対応するものもあるが、文書点数は倍以上を数える。内容的には、i)と同様の問題が取り扱われている。

iii) 綴 (I) (66点)

日本文書の原本及び写を綴って製本したものであるが、中には英文文書8点が混入している。なお装丁について見れば、表紙は表裏とも堅紙に蝶翅紙を張り、背や角を革装としている。大きさは、29.2cm×22.5cmであるが、中に綴られている文書は大小様々な形状をなす。背には黒インクで、次のような記載がある。

1868~71 / FROM JAPANESE /
INCLOSURES / ORIGINALS (以下横書き)

明治三年 / 同四年 兵庫縣より (以上縦書き)

慶応4 (1868) 年から明治4 (1871) 年までのものであるが、差出人はまちまちで、受取人も英国領事館に限らず、兵庫縣を通じて受信した文書類を一括したものと思われる。領事館のさまざまな雑務に関わるもので、i) および ii) の文書群とも密接な関係にある。

iv) 綴 (II) (18点)

1点の日本文原文書が綴り込まれているが、他は野紙に書写された文書の日本文による写しで、日本側から発せられたものがほとんどである。装丁は綴 (I) と全く同様で、大きさは、28.0cm×18.7cm。原文書の他は2種類の野紙からなるが、いずれも縦の青野で、版心には「兵庫縣」とある。また背表紙には次の如き記載がある。

1872 / FROM JAPANESE /
INCLOSURES (以上横書き)

明治五年 兵庫縣より (以上縦書き)

明治5年 (1872) とはあるが、明治3年および4年のものも含まれる。

v) 綴 (III) (30点)

全く同一の大きさの野紙に書写された英文文書の日本文による写で、装丁は綴 (I) および綴 (II) と同様である。大きさは、29.2cm×19.5cmで、野紙を用いた内扉があり、「一千八百七十二年」「書翰控」と記され、内題の下に割って「大阪府権知事渡辺昇/兼同府外務局」(いずれも縦書き)と注されている。野紙は縦の茶野で、版心には「兵庫」「大坂」という角書の下に「英國領事館」とある。また背表紙には次の如く書かれている。

1872 / TO JAPANESE /
OSAKAFU (以上横書き)

明治五年 大阪府江書簡留 (以上縦書き)

文書は全て1872 (明治5) 年のもので、日本からの文書ではなく、英国領事館から大阪府へ宛てられた書簡の控えである。

* なお本目録稿の作成にあたって、i) ii) については編年作業を行ったが、iii)~V) に関しては頁順のままとした。

(原 田 信 男)

Ⅱ. サー・ハリ－・パークス書簡 (1881年12月20日 スエズ運河発信 ダグラス宛)

Sir Harry Parks Suez Canal Dec. 20, 1881

My Dear Douglas,

You may have thought it strange that I didn't answer your note before I left England, but I assure you it was from no want of will, but from the pressure of work which obliged me to defer attention to many private matters until after departure. From Marseilles to Port Said we have had a stormy passage. I dare say you know how difficult it is to write in a cabin (if you can stand the close air) in gale wind. I can only hope the enclosed will be of service to you and that it will not arrive too late. As Ralston, I think very much that the elections would not take place before February. I have no doubt you will receive other testimony of much greater value though probably none will be more cordially offered than my slender contribution. I am, of course at a disadvantage as compared with those who have an intimate knowledge of your role in the British Museum.

I am sorry various causes, including much occupation at the ?, this indifferent health and absences from London (as I remained as much as I could in the country) prevented my seeing you at the Museum, but I should be proud to call on you at the ? to renew my acquaintance with Mrs. Douglas when I next come home.

Pray let me hear the result of your application.

I suppose you know my councilious Charles Keary, I wish he had greater scope for his abilities, but opportunities finally come to those who are qualified for them, if they can afford to wait. I should feel obliged if you would let me know what his prospects in the Museum Service are, but don't tell him that I made the inquiry.

I shall also be interested in Terrieis de la Corneries researches. I have only read the pamphlet which you translated, and it was of course not full enough to be convincing. That the Chinese had an earlier origin than that which dates from their settlement in China is of course evident. But I don't as yet follow T. de la Cornerie's theory that they altered their earlier written language from an alphabetical to a hieroglyphical one. The Egyptians did not. I should like to see what he makes of the YIH KING (?). I shall be glad if he finds it will repay his research. I am afraid his predecessors haven't done so.

Begging you to remember me very cordially to Mrs. Douglas, believe me my dear Douglas,

very sincerely yours,

Harry S. Parkes

スエズ運河 12月20日 1881

敬愛するダグラス、

イギリスを出る前に、あなたの手紙に返事を書かなかったことは変だと思ったでしょうが、書きたくないからではなく、仕事の忙しさで個人のことは出発後にさせたからだった。マルセイユからポートサイド迄かなり荒れた航海をしてきた。あなたは、きっと、強い風の時船室の中で（暑苦しい空気を絶えることが出来るという話ですが）どれほど書くのが難しいかよく御存じでしょう。同封したものが助けになることと間に合う事を切に望んでいますが、ラルストンと同じように、多分二月迄に、選挙はないだろう。きっと、よそからもっと価値ある支持表明を貰うと思うが、私の細々としたものほど喜んで上げたものはよそにないだろう。私は、しかし、大英博物館での活躍についてよく分かっている人より、もちろん、よく書けないでしょう。いろんな原因、??での仕事、ロンドンから離れた事、（出来るだけ田舎に過ごしたから）、健康のあんまり良くない状態、などが、博物館であなたに会うことの妨げになったことは、残念です。けれども、今度帰国したときに??で、奥様とまた会うために、よろこんで尋ねたいと思います。

あなたの申請の結果を、きっと、知らせてください。

私の敬愛するチャールス・ケリーを知っていると思う。彼が自分の能力を、もう少し活躍できるところがあったらいいと思っていますが、チャンスを待つことが出来る人には、いずれは訪れるだろう。博物館省での彼の将来の可能性を知らせてくださると幸ですが、彼に私が尋ねたことについて、教えないで欲しい。

テッレイス・デラコルネリエスの研究にも、興味があります。あなたが翻訳した小分冊しか読んでいないが、納得できるまでの量は勿論なかった。中国人は、今の中国に住み着くとき以前の歴史があることは、解りきったことですが、前にあったとしているアルファベット文字から、中国人は絵文字に替えたいという T. デラコルネリエスの説にちょっとついて行けないと思う。エジプト人はしなかった。かれは、YIH KING についてどう考えるか知りたいと思う。それが彼の研究の苦勞を報いてくれるとよいですが、彼の前にそれをやった人達はそうならなかった。

あなたの奥さんに、くれぐれもよろしくお伝え下さい。敬愛するダグラス、

ハリー S. パークス

(芸 林 民 夫)

Ⅲ. 文書目録稿

Ⅰ. 日本文文書

番号	表題(内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
1	(英舟,白蠟盗難事件容疑者,肥前国,浦上村剽・竹ノ久保郷・禎之助,他3名の取調べに付)	申(万延元)3・52		和蘭 年番通詞	状1	
2	(英商ヲールトに雇われ,同人より白蠟盗りし6名の処分および盗品返還等に付き,英領事への通達)	申(万延元)10・13		和盗 年番通詞	状1	
3	[書状](港会所にて,銅銭差し押さえの処置に付)	酉(文久1)7・	小杉石藤次 大熊直次郎 福井金平	いんねすりひ	状1	
4	[書状](グリーン家屋建築遅延の件)	文久2・2・22	東條八太郎	ノフマイホルク	状1	
5	[書状](グリーン家屋建築遅延の件)	文久2・8・26	中臺信太郎	いふしまいほるく	状1	
6	[書状](グリーン家屋建築遅延の件)	文久2・8・28	中臺信太郎	ういんち ゑすとる	状1	
7	[書状](ヲールト雇入の清吉・国五郎の両人が盗難事件をおこし,捕えられた件に付)	文久3・5・9	大久保豊後守	ショウエル モリソン	状1	
8	[領収書](ウィルリームキースの慶応2年12月11日から,同3年正月13日までの寄宿料)	卯(慶応3)正	養生所		状1	
9	[領収書](ニュースボイ水夫ロヘルツの慶応3年正月24日から,同2月15日までの寄宿料)	卯(慶応3)2・15	養生所		状1	
10	[請求書](ウィルワトル船乗組ライの慶応2年12月晦日から,同3年正月24日までの寄宿料)	卯(慶応3)3・	養生所		状1	
11	[書状](孝国人と小森勝助との紛議打ち合わせに付)	辰(明治元)7・22	東久世中将	孝国公使フアンブ ラント	状1	
12	[書状](ハワイ島渡米に際し,仲介人,米国人ノウェンリートの処罰と現地の日本人の帰国方法に付)	辰(明治元)7・25	東久世中将	孝国公使フアンブ ラント	状1	
13	[書状](江戸を東京に改称するに付伝達)	辰(明治元)7・29	東久世中将	孝国公使フアンブ ラント	状1	
14	[布告写](三條右大臣を大総督宮鎮台に命じ,鎮将府の支配権限下達せし事等に付)	(明治元)7・			状1	
15	[書状](肥後藩小森田勝助と闘争事件を起こしたベッケルとメンゲルの扱いに付)	辰(明治元)8・4	井関齋右衛門 寺嶋陶蔵	孝国公使通弁官ケ ンプルマン	状1	
16	[書状](燈明台製造所建築予定地としての孝国用地隣地を変更するに付)	辰(明治元)8・7	東久世中将	孝国公使フアンブ ラント	状1	
17	[書状](肥後藩士小森田勝助切腹差留の伝達受領に付)	(明治元)8・16	井関齋右衛門 寺嶋陶蔵	孝国公使附通弁官 ケンプルマン	状1	
18	第十二号(独国人アルメンゲル氏に山下海岸借受許可願に付)	巳(明治2)12・19	桜田大参縣事 中野大参縣事 井関権大縣事	エトライス	状1	
19	第七号(柳原権大丞外4人清原国に付,上海において在留日本人取締まりの為独公使へ同族依頼の件)	庚午 明治3・9・13	外務大輔寺島宗則 外務郷澤宣嘉	独北部連邦公使 フォンブラント	状1	
20	[高書上](今般高預之儀并戸籍調帳江越石高書のせ候に付・他6点)	明治5・5・1	藤七		綴1	
21	町触案(賈造洋銀改に付)	8・		ういんち ゑすとる	状1	

II. 蘭文・英文文書

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
1	(長崎港の日本人入夫への賃金未払いに付き抗議の件)	1860・ 10・16	Misima	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	
2	(倉庫建設の際当分、仮の倉庫を借りる件に付き折衝)	1860・ 12・17	Okabe Tsuruganokami	Geo. S. Morrison	状1 蘭語訳	
3	(江戸で商売を希望する英国人商人に対して許可なく江戸へ行かない旨注意の件)	1860・ 12・21	Okabe Tsuruganokami	Geo. S. Morrison	状1 蘭語訳	
4	(長崎の外国人居留地の借地代金送付書)	1861・ 4・3	R. Arnods	G. S. Mor□nky	状1 英語訳	
5	(国家間に条約未締結の際の取扱いについての尋ね)	1862・ 4・27	Takahasi Mimasakanokami	F. G. Myburgh	状2 蘭語訳	
6	(中国人3人、英国船より品物を盗もうとして見つかり逃走の件に付)	1862・ 5・6	Okuma Naojiro Fukui Kinpei		状1 英語訳	
7	書簡 (28日の貴兄訪問に付)	1862・ 5・24	Takahasi Mimasakanokami	F. G. Myburg	状1 蘭語訳	
8	(英国人 T. B グローバの降港希望につき、密輸の疑いがあり不許可)	1862・ 7・7	Okuma Naojiro Fukui Kinpei	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	
9	(トンジロ病気につき商人アルノットとお茶売買猶予の希望)	1862・ 7・10	Takahasi Mimasakanokami	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	
10	(奉行オオクボ‘病氣’また自分は江戸へ戻るため外事ツエマキゲンザブローが担当する旨の知らせ)	1862・ 7・22	Takahasi Mimasakanokami	C. Winchester	状1 蘭語訳	
11	(英国船に乗り込み金銭を取って逃走した日本人3人の罪状と処罰についての知らせ)	1862・ 7・24	Takahasi Mimasakanokami	C. Winchester	綴4 蘭語訳	
12	(外務担当として江戸から到着した知らせ)	1862・ 7・28	Tsumaki Genzaburo	Charles A. Winechester	状1 蘭語訳	
13	(偽ドル札発見につき役人を指名し更に調査を依頼の件)	1862・ 8・14	Tsumaki Genzaburo	Charles A. Winchester	状1 蘭語訳	
14	(中国船来航につき違反の疑いにより以後船内調査する旨の知らせ)	1862・ 8・23	Tsumaki Genzaburo	Charles A. Winchester	状1 蘭語訳	
15	(長崎奉行ゲンザブロー重病につき、ナカダイが代わって外事関係を担当する旨の知らせ)	1862・ 8・29	Nakadai Nobutaro	Charles A. Winchester	状1 英語訳	
16	(偽札出回りに付き、中国人商人に注意の旨の知らせ)	1862・ 8・31	Nakadai Sintaro	Charles A. Winchester	状1 蘭語訳	
17	(グリーン氏の家屋建築下請人病気のため、作業が遅れている件に付)	1862・ 9・16	Higashijo Hachitaro	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	
18	(グリーン氏の家屋建築の契約人ジュスケコレラにより死亡のため請負いを全て白紙に戻す件に付き知らせ)	1862・ 9・19	Nakadai Nobtaro	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	
19	(グリーン氏の家屋建築遅延につき、別の請負人紹介の件)	1862・ 9・21	Nakadai Nobutaro	Charles A. Winchester	状2 蘭語訳	
20	(長崎へ牛を連れてきた英人からそれらを買う伺いに付)	1862・ 9・22	Nakadai Nobtaro	Charles A. Winchester	状1 蘭語訳	
21	(英国船マルローズが税関に寄らず港に碇泊した件に付き、抗議と料金請求)	1862・ 9・22	Ookuma Naojiro Fukui Kinpei	F. G. Myburgh	状2 英語訳	
22	(荷物請おろしの遅延に付き、手続きに時間がかかったことの釈明)	1862・ 10・6	Okoema Nawosiro Hoekoei Kinpei	K. E. スミット	状1 蘭語訳	
23	(牛を購入する件に付き、飼う場所を決め使用許可を申請すべき旨通達)	1862・ 10・10			状1 蘭語訳	
24	(領事館の牛や馬の購入が幕府により許可された旨の通知)	1862・ 10・10	Nakadai Nobtaro	Charles A. Winchester	状1 蘭語訳	
25	(英国商人グロンの召使いが他港で働く件に付)	1862・ 10・13	Nakaday Nobeotaro	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
26	(英国領事館供給用の現金受け取り通知)	1862・ 10・14	Nakaday Nobtaro	Charles A. Winchester	状1 英語訳	
27	(長崎で病気になったゴンペ・バン・ミールデがオランダに帰国する旨の通知)	1862・ 11・1	Nakadai Sintaro	C. Winchester	状1 蘭語訳	
28	(トウマキゲンザブローの死に付き通知)	1862・ 11・1	Nakadai Nobootaro	Charles A. Whinchester	状1 英語訳	
29	(オオクボ到着の知らせ)	1862・ 11・5	Okooobo Boongonokami	Winchester	状1 英語訳	
30	(長崎港に面する土地の譲渡禁止に付き江戸からの通知)	1862・ 11・18	Fookui Kimpai	F. G. Myburgh	綴1 英語訳	
31	(グリーン氏家屋建築を急ぐよう指示したことの知らせ)	1862・ 11・22	Higasigeo Hachtaro	F. G. Myburgh	状1 英語訳	
32	(コベンナー(奉行?)からのもてなしへの招待状)	1862・ 11・23	Nakadai Nobtaro	Charles A. Winchester	状1 英語訳	
33	(もてなしへの招待状)	1862・ 11・23	Nakadai Nobtaro	F. G. Myburgh	状1 英語訳	
34	(港に碇泊している船の積荷の関税が未払いの件に付き抗議)	1862・ 12・5	Okoebo Boengonokami	Charles A. Winchester	綴1 蘭語訳	
35	(領事館で偽せ金使用の疑いのある者を、海上保安へ連行すべき件)	1862・ 12・6	Okoebo Bungonokami	Winchester T. Loureiso T. P. Metuan S. U. Charch	状1 蘭語訳	
36	(中国人が特に使用しているという偽せ金の件に付き公式説明)	1862・ 12・6	De waand van Luoe		状1 蘭語訳	
37	(馬の輸出に付き種々の規則により困難の旨の知らせ)	1862・ 12・19	Takahasi Mimasakanokami	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	
38	(英国人ジョン・スミス日本人女中が金銭盗難に及び、逃亡したが捕ったとの知らせ)	1862・ 12・24	Okoebo Boengonokami	Charles A. Winchester	状1 蘭語訳	
39	F. G. Myburgh (宛名)	1862・	Takahasi Mimasakanokami	F. G. Myburgh	状1 蘭語訳	
40	(リオペト号船長とモリソン領事依頼の面会に付)	1863・ 6・24	Ookubo Bungonoka	Geo S Morrison	状1 英語訳	
41	(英国人アルトが雇い入れた人夫ヒョウキチ、クニゴロを盗みの疑いで取り調べの件に付)	1863・ 6・26	Okubo Bungonokami	Geo. S Morrison	綴1 蘭語訳	
42	(三の橋の建設と借地料の催促)	1868・ 10・	Konsumoto Haynoji, Nomura Lowkich etc.	Marcus Flowers	状1 英語訳	
43	(英人リチャードソンから日本政府がアミスチスという船購入につき、受け取りの知らせ)	1868・ 5・27	Takahash Mimasakanokami	F. G. Myburgh	状1 英語訳	
44	(にせドル見付け次第届けるべき政府の命令に付)	8・			状1 蘭語訳	
45	(グリーン氏家屋建築、特注の釘以外ほぼ終了の旨知らせと代金請求)	186□・	Higasijo Hachtaro	K. R Schmid	状1 英語訳	
46	(事務所の番号か)	186□・ 11・16			状1 英語訳	
47	(借地の英人に自分の家屋建築終了まで家屋を貸す件に付)	4	Okubo(?)	Morrison	状1 英語訳	
48	(グローバー氏雇いの中国人カンチケンの品物の関税金額値上げの知らせ)				状1 英語訳	
49	(長崎奉行に任せられたハットリナガタノカミまもなく到着の旨知らせ)		Ookubo Bungonokami	Geo. S Morrison	状1 英語訳	
50	(Br と J. S との問題解決により日本文・英文文書にサインの件に付)		Okabe Joeloeganokami	Geo. S Morrison	状2 英語訳 蘭語訳	

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
51	(上陸の際、領事に上陸料金を払い許可を受ける件に付)				状1	蘭語訳
52	F. G. Myburgh (英国人通訳官名)		F. G. Myburgh		状1	
53	盧草拙 (中国人名の書き付けか)				状1	

Ⅲ. 綴 (I)

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
1	乍恐以書附奉願上候 (操練所英国コンシウロ仮普請並病院普請の代金支払に付)	辰 慶応 4・3・4	嶋屋久次郎	御運上御役所	状1	
2	乍恐奉願上候 (操運所旗棹台石垣代金支払に付き写)	辰 慶応 4・3・5	嶋屋久次郎 肝煎備前屋喜三郎	御運上御役所	状1	
3	覚 (簾台丸石垣代金請取)	辰 (慶応 4) 3・5	備前屋喜三郎		状1	
4	Bill of the payment for the flagstaff				状1	英文
5	覚 (双連所仮繕普請入用并病院受取普請入用等請求に付)	辰 (明治 9) 3・4	嶋屋久次郎		状1	
6	Bill of the payment for the expanse on repairing the British Consulate (etc.)				状1	英文
7	外国人より小判売渡儀御尋する付比較申上候		綿屋定七他4名		綴4枚	
8	布告 (全六条、外国船の荷物積揚げ規則)				状1	
9	(神戸町において外国人への奉公人の世話方会所の取決に付)		(奉行人世話方翁所)		状1	
10	乍恐口上 (当宿滞宿の者鉄砲百挺斗を売買する儀に付き写)	明治元・ 9・20	神戸町杉口伝吉	御役所	状1	
11	乍恐以書付奉願上候 (廊内にて支那人家具破損に付代金請求書)	辰 (明治 元) 9・27	廓取縮り方 泰蔵 代友輔	御役所	綴3枚	
12	乍恐以書付奉願上候 (英国商人ケンツベラキ買物代金支払差戻に付)	辰 明治 元・10・	薬屋源六 政吉	御役所	状1	
13	(アスヒネルス商会ケンネルリー無免状に付天保銭積送りの事)	2・15	運上所士官		綴3枚	
14	乍恐以書付奉願上候 (川蒸気船借用運賃儀付)	巳 明治 2・3・	武次郎	御役所	状1	
15	(神戸浜ノ丁、松屋熊吉宅に貴国人民ジョンズ氏、他1名乱暴及損失物等書き上げ)		神戸浜ノ丁 松屋熊吉		綴2枚	
16	英国カメンス預中	巳 (明治 2) 6・15	組頭武市	(英国カメンス)	状1	
17	石炭代金請取高訳書				状1	
18	神奈川縣において各国岡土へ布告の写 (貨幣引換1条約定に付)	7・20	大少丞連名	各国国土	綴2枚	
19	(英国ジョンズ、病院の寄宿料、領収書)	8・11	病院会計□		状1	
20	写 (尼崎藩町内煙草屋弥兵衛方へ西洋人龍越商売いたしたきむね申し出に付)	巳 (明治 2) 10・10	尼崎藩弁事 家松友次郎		状1	
21	(樽屋政七とジョンソンの売込船に関する乱暴狼籍事件に付き写)				状1	
22	(廻方、源次郎、病院寄宿料領収書)		病院		状1	
23	(英人ジョンズの入院賄料領収書)		病院		状1	

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
24	乍恐書付を以奉願上候 (英国人シメドリへ売り渡す地所代金に付き願書写)	午 明治 3・2・11	本熊村庄兵衛 年寄源右衛門	外国地所掛 御役所	綴1(2枚)	
25	(大工左官石工職の取締人, 印鑑不用に付き通達)	3・9	兵庫県外務局		状1	
26	(浜仲仕組頭廃止に関する通達)	3・9	兵庫県外務局		状1	
27	CONDITIONS of the PUBLIC SALE of the LEASES of LAND in the Foreign Settlement at Hiogo (printed)	(1870)			綴1(2枚)	英文 活字印刷
28	GOVERNMENT LAND SALE (Printed at the "HIOGO & OSAKA HERALD" Office)	(1870・ 明治3)	JOSEPH COLINS & Co.		綴1(2枚)	英文 活字印刷
29	(書状; 西京為替会社, 切手小札払底に付)	午 (明治 3)3・	神戸出張通商司	兵庫県外務局	状1	
30	A List of expense for Hiosal Tahigouchi mura in acashi as fellow	1870 (明治3)			状1	英文
31	明石谷口村兵作諸雑用書付 (兵作怪我に付入用代金内訳)	2・29			綴1(3枚)	
32	(書状; 生田川堤の岡土館返却に付)	4・17	中山大参事	英国岡土 カール閣下	状1	
33	上 (大豆代金納入に付き覚書)				綴1(3枚)	
34	乍恐以書付願上候 (英人ルツカースとの大豆取引に付)		大坂北久太郎町 万屋佐七郎 代龍助	兵庫県事務局 御役人衆中様	綴1(3枚)	
35	(英人ルツカース大豆取引に関する訴訟に付歎願書写)	(明治3) 3・12	万屋佐七郎 代龍助	外務局御役所 御役人衆中様	綴1(6枚)	
36	ルツカースへ渡金高大豆代金覚)				綴1(2枚)	
37	Copy	1870 (明 治3)6・2	M. A Tompson		状1	英文
38	Copy	1870 (明 治3)6・2	G. Mills		状1	英文
39	乍恐以書付奉歎願候 (英人ルカス家作代金に付)	午 明治 3・5・	北野村百姓 伝左衛門他1名	外務御役所	綴1(2枚)	
40	(生田村直次郎 英国人ゴールドマン居館前にて銃砲により傷を負いに付き写)	(午) 明治3・ 7・27	生田村直次郎		綴1(2枚)	
41	(生田村直次郎, 英人コールドマン居館前にて銃砲の傷を負うに付き写)	午 (明治3) 7・27	加勢屋儀助		綴1(2枚)	
42	諸雑費積書御帳 (生田村直次郎傷害事件に関する写)	午 (明治3) 8・29	生田村藤左衛門 他3名	外務御役所	綴1(3枚)	
43	PROCLAMATION OF NEUTRALITY	1870 (明治3) 8・	DAJOKWAN		状1	英文 活字 印刷
44	容体書 (枳屋喜藏の妻, 外国人より傷負わされるに付き写)	明治4・ 3・10 未	竹内謙斎	外務局御役所	状1 (野1 枚)	
45	乍恐口上 (ガラハ商会ゴローウルより肉桂皮買付に付)	明治4・ 3・12 辛未	津国屋嘉兵衛	兵庫県外務御役所	綴1 (野4 枚)	
46	(英人語学教師 リツルウォート 金沢へ赴く途中病死するに付)	明治4・ 3・	金澤藩浅津涉	外国事務局	綴1 (野3 枚)	
47	乍恐以書付奉願上候 (油絞機械納入支払いに付)	明治4未 4・2	成尾屋安兵衛 他1名	外務局御役所	綴1(2枚)	
48	乍恐奉願候 (油絞機械の納入支払いに付)	未 (明治4) 4・9	成尾屋安兵衛	外務御役所	状1	

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
49	(英国商人フィスチェル, 生金巾税金差し戻しに付)	未 (明治4) 4・22		西運上所	綴1(2枚)	
50	免状扣之写	未 (明治4) 4・15	荷主 フィスチェル		状1	
51	(英人語学教師リッルウォート金澤に赴任途中病死するに付)	明治4・ 3・20	金澤藩浅津涉	神戸在留 英国岡土ガウル	綴1(野3 枚)	
52	書翰(漢川より生田川の間測量の儀に付)	辛未 (明治4) 2・	中山権知事 岡郷大参事	英国 ゼーツブル エーバルト	綴1(野1 枚)	
53	(綿屋峯太郎20ドル払入の件)		テーブル		状1(野1 枚)	
54	乍恐以書付奉願上候(英人ウィグノルとの商売取引にかかわる金銭受渡しの取り違えに付)	明治4・ 5・3	長尾最平 村尾祐三郎	外国事務 御役所	綴1(野5 枚)	
55	算用書覚(蒸気機械・メタルパイプ代など)				綴1(野2 枚)	
56	第12号(手紙拝見に付目録名差出し候趣, 承知致し右回報如此御座候)	(明治4) 12・27未	大蔵少輔 吉田清成	アベルエ・セ ガーワル	状1	
57	記(端舟・練襦・敷物・楫)				状1(野1 枚)	
58	乍恐口上(神戸大手町淡路屋へ外国人1人罷越品物取出候始末に付)	5・17	神戸大手町 女房せい他1名	外務局御役所	綴1(野2 枚)	
59	76号(ヘルハウソン氏, ウィグノル氏との商売契約に付)	辛未 (明治4) 5・18	中山権知事 岡村大参事	英国領事 セームスエンツリ	綴1(野2 枚)	
60	貨幣比較表(各開港場に於て税金取立用)	辛未 (明治4) 11・21			状1(野1 枚)	
61	貨幣比較表(各開港場に於て税金取立用)	辛未 (明治4) 11・20			状1(野1 枚)	
62	写(神戸表にて英人出入之義に付兵庫県外務局よりの沙汰への願上書)	未 (明治4) 9・14	大阪天満伊勢町 播摩屋久之助 他1名	大阪府御役所	状1(野1 枚)	
63	英国人ウィクノルへ係り願立候一件に付於英領事館裁判3ヶ条之内左之通苦情申上候(写)	辛未 (明治4) 9・27	長尾最平 村尾祐三郎	外務御役所	綴1(4枚)	
64	[Letter](汽船エンジン完成に付)	1870 (明治3) 12・2	T. H. Wengnal	Awa officer	状1	英文
65	乍恐奉願上候(英国ハンタ商会より7300枚品物代返済に付き写)	明治4・ 4・1	津山藩 加藤達平他1名	兵庫県 外務局御役所	状1	
66	覚(赤瓦10万枚, 黒瓦1万枚納入に付き写)	未 (明治4) 11・29	問屋為助	英85番 御商会	状1	

IV. 綴 (II)

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
1	雑居地規則大意	(ママ) 壬午 正・21	神田県令			
2	(英人ウィグノル氏へ政府より注文の蒸機船に付き, 引替え品一覧)	辛未 11・19	土木中属伴資	英国領事館		
3	張札案(摂州若林嘉兵衛借金出入に付き, 所持品入札の件)	壬申 8・25	兵庫県外務局			

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
4	第1号布告文(1872年7月8日より貿易章程三則に記載の通り検査の為インヴォイスを指出すべし)					
5	第2号布告(諸物品陸揚船積之義に付)					
6	稟(夷人糾合兇徒七、八輩猛犬兩三頭手携し店内にて器物等破損の件に付)	明治 壬申 5・20	具稟 唐人鄭端仁他	外務局 官長明見		漢文
7	(夷人数輩店内強盜の件に付)	(壬申) 5・26	具稟人 均泰號	外務局		漢文
8	乍恐以書付奉願上候(ホール発伊万里縣梅田太郎宛金子入書状の件に付)	明治5申 6・4	神戸八満町 中井栄三郎	外務局御役所		
9	覚(人力車売挺破損修覆料など)					
10	坂本村牢屋敷内江外国人入牢相成候ニ付所々修繕入費	壬申 8・一	菅繕肝煎 本城新助		状1	
11	17番より訴書之返答書	明治5・ 8・23 申	新東家町 木屋平兵衛	外務御役所		
12	(米国人ケース方え直入鍛冶職之内、人足の差配に付)	壬申 8・21	川崎新田 福三郎他2名			
13	第2号布告(諸物品陸揚船積に付き布告)					
14	(大阪・神戸間海往返致し候小蒸気船出入の節合図の吹笛に付き取極め)					
15	神奈川縣より掛合状写(日本人源藏より英人グリーンに対する炭薪代未払に付き訴訟)		英国領事 スユル・ロベルト ソン	神奈川縣令 陸奥宗光		
16	(源藏より英人グリーンに対する洋銀受取についての愁訴に付)	辛未 8・	神奈川縣令 同參事	英国領事		
17	(田辺源藏より英人グリーンに対し、炭薪代洋銀滞りの儀愁訴に付)	壬申 正・26	大江神奈川 縣參事	神田 兵庫縣令		
18	以書付御利解奉願上候(炭薪代洋銀滞りの儀に付)	明治4未 8・2	田辺源藏 石川半左衛門	御役所		

V. 綴 (III)

番号	表題 (内容)	年月日	差出人	請取人	形態・数量	備考
1	(大坂在留時、捕えた佐藤を獄舎より出す希望の件に付)	2・27	英国領事 アヘル・エセカワ ール	大阪府外務局		
2	(我政府より代弁副領事……)	2・24	英国代弁領事 ホール	大阪府 渡辺権知事他1名		
3	(我 国 人 ムリーヤンパーイーマンの商社へ大砲582挺買入の件に付)	3・9	英領事 アヘル・ エセカワール	大阪府 渡辺権知事		
4	(日本商人より買請候銃砲の調査に付)	3・11	英代弁副領事 ホール	〃		
5	(我 国 人 ルカスウフォートルス 商 会 所 持 の 小 銃 三 口 を 大 坂 より 神 戸 ま で 日 本 船 に て 運 送 の 件 に 付)	3・11	〃	〃		
6	(我 国 人 ヲ リ エ ー ン ク ル バ ン ク 商 社 へ 金 銀 地 金 売 渡 の 儀 に 付)	3・13	〃	〃		
7	(外国人へ金銀売渡之儀、運上所へ届出之件に付)	3・29	〃	〃		
8	(貴局より相尋度儀ありて我 国 人 召 使 貴 局 江 差 出 し の 件 に 付)	3・29	〃	〃		

番号	表 題 (内 容)	年月日	差 出 人	請 取 人	形態・数量	備考
9	(大野村太兵衛 小船衝突を受け破壊の件に付)	4・16	英代弁副領事 ホール	大阪府 渡辺権知事		
10	(九所丸, 貴国ヘルリン船へ衝突損害致し候件に付)	4・16	〃	〃		
11	(ハイラムシャー・ウィルキンソン我政府より代弁副領事に任ぜられ候件に付)	4・21	英国領事 アヘル・エセカー ル	〃		
12	(我国人ムリヤンハイマン氏 商社通弁佐藤小虎を貴府へ差出しの件に付)	5・6	〃	〃		
13	(貴国人河辺清兵衛以下4人より我国人ハイマン商社へ赤金売渡の件に付)	5・22	〃	〃		
14	(貴府権典事佐藤氏より出願の件に付)	6・3	英代弁副領事 エチエス ウィルキンソン	〃		
15	(河辺清兵衛以下3人より我国人ムリヤンハイマン商社へ赤重売渡の約定の件に付)	6・5	〃	〃		
16	(我国人シーム氏写真大并茶等大坂より神戸まで運送の件に付)	6・11	〃	〃		
17	(貴国人笠谷新太夫他1名, 我国人ヘルベルトブラウエル雇入の件に付)	6・25	〃	大阪府参事 藤村信郷		
18	(貴府官下金子屋安助より我国人ムリヤンハイマン商社へ大砲売渡し金の支払いに付)	7・11	〃	〃		
19	(我国人モリヤンハイマン商社 貴府商人古賀屋輪造より10万斤, 燃料買入の約定破談之件に付)	7・11	〃	大阪府権知事 渡辺昇		
20	(□則本日請取候書状写直布御取扱の件に付)	8・3	英国領事 エエゼカール	租税寮 厚東樹臣		全文 抹消
21	(我国公使西京江罷越之節御懇切御周施被下, 同人より深謝申入れの件に付)	8・5	英国代弁副領事 エッチエス・ ウィルキンソン	大阪府権知事 渡辺昇		
22	(米国人エベル願出, 美人, 奥人, 仏人, 伊人, 西人共滋賀縣并其他江罷越の件に付)	8・23	英国領事 エエセガール	〃		
23	(茶検査の為, 條約第2条コンシュル・ゼネラルの件に付)	8・28	英国代弁副領事 エッチエス・ ウィルキンソン	〃		
24	(貴国天皇陛下御降誕に付, 御饗膳之由, 貴府外務局江御招きの件)	9・21	英国領事 エエセガール	〃		
25	(〃)	9・21	英国代弁副領事 エッチエス・ ウィルキンソン	〃		
26	(〃)	9・21	ホール	〃		
27	(我管下ヨンケン氏, 京都府病院教師として3年間雇入の件に付)	9・24	英国代弁副領事 エッチエス・ ウィルキンソン	〃		
28	(我国人モリス氏より, 貴国人金正屋佐兵衛へ係一件, 御裁判7, 8日御延引の希望の件に付)	9・28	〃	〃		
29	(我国人モリス氏, 條約規律を犯しの件, 裁判之上罰金申付けの件に付)	9・28	〃	〃		
30	(我国人モリス氏より, 貴国人金屋佐平などに係る一件の証人吟味に付)	10・19	英国代弁副領事 セームス・セー ・エンスリー	〃		

〔付記〕 本文書の整理および目録稿の作成にあたったのは、原田・芸林・工藤の3名であるが、1988年から1989年にかけて文化学科学生の協力を得た。1988年度卒業生の津田宏恵が事務局を務め、同じく金比呂子・堀泰子・矢野佳世、1989年度卒業生の早川千賀子、1989年度1年生の佐野浩子・高瀬満里子が参加した。なお早川は、本文書の一部を使用して、卒業論文「開国期における外国人と日本人との傷害事件について」を作成し、その要約が『文化学科年報』第6号に所収されている。

Luey Canal Dec. 20. 87
 第 10 號 第 2 號 第 3 號
 第 4 號
 Dear Douglas
 You may have thought
 it strange that I did not answer
 your letter before I left England, but
 I am afraid I was prevented
 of it, by the pressure of work
 which obliged me to defer attention
 to many private matters until
 after departure. From Marseille
 to Port Said we have had a
 stormy passage, & I dare say
 you know how difficult it is to
 see clear in a cabin (if you can
 stand the close air) in a gale
 of wind. I can only hope that
 the vessel will be of service to
 you & that it will not arrive
 too late, as Rabbin I think
 mentioned that the steamer
 would not take place before

February. I have no doubt you
 will receive these testimonials
 of great value though
 probably none will be more
 cordial. Hence than my slender
 contribution I am of course at
 a disadvantage as compared
 with those who have an intimate
 knowledge of your work in the
 British Museum.

I am sorry that ~~and~~
 many causes - including much
 occupation at the Musée d'Art
 industriel, health & financial
 considerations (as I remained
 as usual as usual in the country)
 prevented my seeing you at the
 Museum, but I should be
 proud to call upon at the

Rabbin to renew my
 acquaintance with Mr. Douglas,
 when I next come home

Might we hear the
 result of your application?

I suppose you know
 my conviction. Charles Riaz
 has a talent greater scope for
 his abilities, but opportunities
 come to those who are qualified
 for them - if they can afford
 to wait. I should feel obliged
 if you would let me know what
 his prospects in the Museum
 seem to be, but I don't call
 know that I would be going.

I shall also be interested
 in Fernin de la Proprie's remarks
 I have only read the pamphlet
 which you translated & published

Fernin de la Proprie's
 convincing. That the Chinese had
 an earlier origin than that which
 dates from their settlement in
 China is of course evident, but
 I don't see how you get the
 Chinese language from an alphabetical
 or hieroglyphical one. I should
 like to see the traces of the
 Chinese. I should be glad if
 he finds it worth repeating his
 research. I am afraid his
 predecessors had not done so

Please give my remembrance
 very cordially to Mr. Douglas

Believe me very dear Douglas

Very sincerely yours

Augustus Parkes